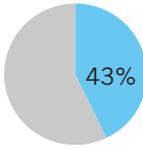


## セグメント情報

### 事業の種類別業績

#### 機械加工品事業

全体に占める  
売上高比率

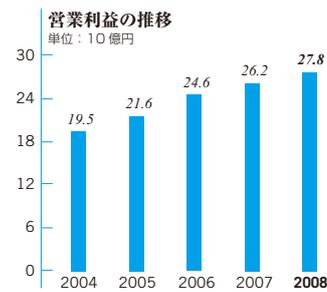


機械加工品事業の売上高は144,034百万円と、前連結会計年度に比べ6,372百万円(4.6%)の増収となりました。営業利益は、27,750百万円と前連結会計年度に比べ1,555百万円(5.9%)の増益となり、売上高営業利益率(売上高は外部顧客に対する売上高)は19.3%と前連結会計年度より0.3ポイント上昇しました。為替影響や原材料高騰の影響はあったものの、引き続き好調な世界の需要環境を背景として主要製品の販売が伸長し、営業利益も継続的な原価低減により増加しました。

#### 主要製品群、市場、市場での位置付け

製品群と主要製品	主要市場	当社の 世界市場占有率 <sup>(注)</sup>
<b>ベアリング及びベアリング関連製品</b>		
ミニチュア・小径 ボールベアリング	各種小型モーター、家電、 情報通信機器、自動車、産業機械	60%
ロッドエンド& スフェリカルベアリング	航空機	50%
ピボットアセンブリー	HDD	65%
<b>その他機械加工品</b>		
特殊機器、ネジ	航空機、自動車、産業機械	—

注：市場占有率は数量ベース。ロッドエンド&スフェリカルベアリングのみ金額ベース。当社で独自に入手した情報及び市場調査会社の情報を基に、当社が対象とする市場における占有率を推定しております。



#### 主要製品

##### ●ベアリング及びベアリング関連製品

ミニチュア・ボールベアリング  
小径ボールベアリング  
シャフト一体型ボールベアリング  
ロッドエンドベアリング  
スフェリカルベアリング  
ローラーベアリング  
プッシング  
ピボットアセンブリー  
テープガイド

##### ●その他機械加工品

航空機用・自動車用ネジ類  
特殊機器  
電磁クラッチ／電磁ブレーキ

#### 事業詳細

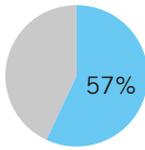
主力のミニチュア・小径ボールベアリング事業では、自動車やモーター向けなどを中心に販売が増加し、利益も増加しました。また社内使用も含めた生産面においては、ピボットアセンブリーやファンモーター向けなどPC・デジタル家電製品向けの需要拡大に伴うミニチュアサイズ・ボールベアリングの市場の広がりにも対応し増産を実施しております。歩留まり向上と合理化による原価低減も継続して行っております。また、製造の原点への回帰をテーマとして事業の強化をはかりながら、基礎技術開発部門の強化もはかっております。

ロッドエンド&スフェリカルベアリング事業では、世界の航空機生産が好調で、売上高と利益が増加しました。旺盛な航空機需要に対応し、軽井沢、米国、英国の3拠点で生産能力の増強を実施すると同時に、低コスト体制構築と生産能力増強を目的としてタイの前工程生産能力の拡大をさらに進めております。また、従来から展開しているロッドエンド&スフェリカルベアリングに加え、エンジン周辺部でのボールベアリング部品やより高度な加工技術を駆使した大型メカパーツ分野への進出をはかっております。また2008年4月から、ロッドエンド事業部はファスナー事業部と組織統合し、民間航空機向けファスナーへの進出も図っております。

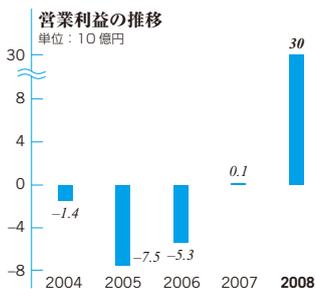
ピボットアセンブリー事業では、PCやデジタル家電等に需要が拡大しているHDD向けに売上高が増加しました。今後も年率2桁増が続くと予想されるHDD市場で圧倒的なシェアを維持することを方針としております。生産能力の増強と、部品内製化、歩留まり向上など継続的な原価低減をはかっております。

## 電子機器事業

全体に占める  
売上高比率



電子機器事業の売上高は190,397百万円と、前連結会計年度に比べ2,963百万円(△1.5%)の減収となりました。これは、HDDスピンドルモーターの販売増加や計測機器での新市場開拓による販売増加があったものの、スピーカーの販売減少、キーボードの事業構造改革による減少があったためです。営業利益は3,012百万円と、前連結会計年度に比べ2,942百万円(43.7倍)と大幅な改善となりました。売上高営業利益率(売上高は外部顧客に対する売上高)は1.6%と前連結会計年度より1.6ポイント改善しました。これは、為替影響や原材料高騰の影響はあったものの、事業構造改革を受けたキーボードの大幅改善、計測機器での新市場開拓による伸び、情報モーターにおける利益改善などによるものです。



### 主要製品群、市場、市場での位置付け

製品群と主要製品	主要市場	当社の 世界市場占有率(注)
<b>回転機器</b>		
HDD用スピンドルモーター	HDD	13%
情報モーター (ファンモーター、ステッピングモーター、 ブラシ付DCモーター、振動モーター)	PC・サーバー、情報通信機器、 家電、携帯電話、自動車、 産業機械	製品により 2～18%
<b>その他電子機器</b>		
PC用キーボード	PC	6%
液晶用LEDバックライト	携帯電話、デジタルカメラ、 デジタル携帯端末	8%
スピーカー	オーディオ機器、PC、自動車	—
計測機器	産業機械、自動車、ゲーム機	—

注：市場占有率は数量ベース。当社で独自に入手した情報及び市場調査会社の情報を基に、当社が対象とする市場における占有率を推定しております。

### 事業詳細

HDD用スピンドルモーター事業では、原価低減活動を推進したものの、タイ・パーツ高や原材料高騰による外部環境の悪化、歩留まり低下により赤字が拡大しました。引き続き販売単価を維持し、市場の伸びが高く単価の高い2.5インチHDD向けスピンドルモーターの生産・販売の拡大に注力してまいります。

情報モーター事業では、事業再構築を完了し、営業利益が大幅に増加しました。具体的には、拠点の統廃合、外注活用の見直し、製造の効率改善を柱とした生産体制整備を行いました。また、受注内容の精査や新製品の投入により製品構成の改善も実施しております。

キーボード事業では、事業構造改革を実施し、不採算製品からの撤退、ノートPC用キーボード、無線機能付キーボード製品などの高付加価値モデルへの集中を行いました。また、製造、営業及び技術の組織再編、人員削減、設備の除却などにより固定費を大幅に削減しました。これにより売上高は減少しましたが、営業利益は大幅に改善しました。

エレクトロデバイス製品事業では、インバーターが増加したものの、液晶用LEDバックライトにおける単価下落、FDDヘッド、MOD事業の撤退により売上、営業利益が減少しました。今後は、車載向けなどの中型液晶用LEDバックライト製品の拡大をはかってまいります。

スピーカー事業では、競争激化を受け、営業利益が減少しました。

計測機器事業では、ゲーム機分野に新規参入し、営業利益が増加しました。

### 主要製品

#### ●回転機器

ハードディスクドライブ(HDD)用  
スピンドルモーター  
ファンモーター  
ハイブリッド型ステッピングモーター  
PMステッピングモーター  
ブラシ付DCモーター  
振動モーター  
VRレゾルバ

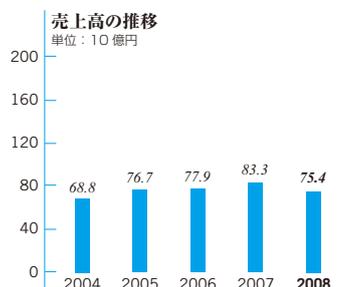
#### ●その他電子機器

パソコン(PC)用キーボード  
スピーカー  
エレクトロデバイス製品  
カラーホイール、  
液晶用ライティングデバイス、  
バックライトインバーター  
計測機器  
ひすみゲージ、ロードセル

## 所在地別業績

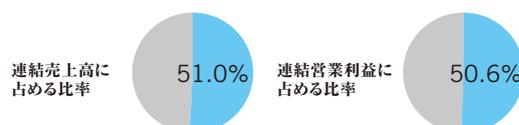
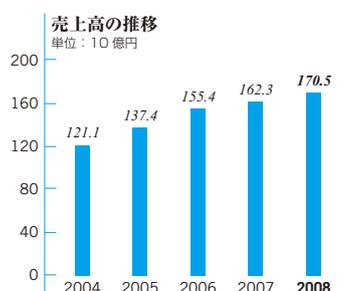
### 日本

日本地域は、売上高75,378百万円と前連結会計年度に比べ7,887百万円(△9.5%)の減収となり、営業利益も販売費及び一般管理費の増加があり9,096百万円と前連結会計年度に比べ674百万円(△6.9%)の減益となりました。



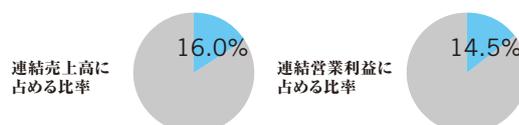
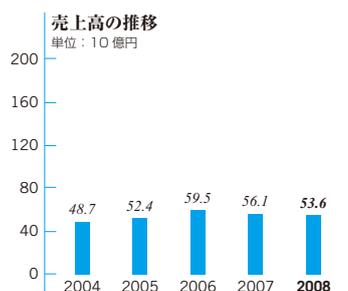
### アジア(日本を除く)

アジア地域は、高成長を続けている中華圏を含み、多くの日本、欧米等のメーカーの生産拠点としている重要な地域です。売上は、情報通信機器関連業界の需要拡大や家電業界の需要に支えられ、堅調に推移しました。この結果、売上高は170,474百万円と前連結会計年度に比べ8,144百万円(5.0%)の増収となり、営業利益は15,573百万円と前連結会計年度に比べ4,274百万円(37.8%)の大幅増益となりました。



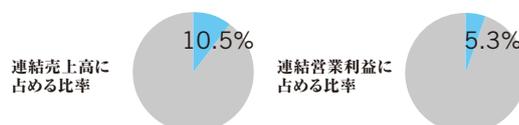
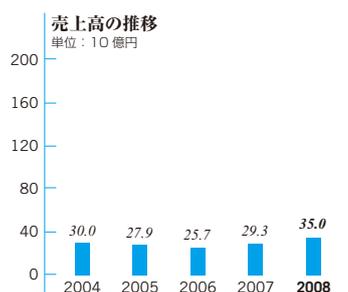
### 北米・南米

北米地域は、米国生産のボールベアリング及び航空機関連業界等向けのロッドエンドベアリングが、受注・販売共に好調に推移しましたが、高付加価値品に特化を進めているキーボードの売上減少に伴い、売上高は53,585百万円と前連結会計年度に比べ2,525百万円(△4.5%)の減収となりました。一方、営業利益は4,476百万円と746百万円(20.0%)の大幅増益となりました。



### 欧州

欧州地域は、緩やかな経済成長の中で、ボールベアリング及びロッドエンドベアリング等が堅調に推移しました。この結果、売上高は34,994百万円と前連結会計年度に比べ5,677百万円(19.4%)の増収となりましたが、営業利益も1,617百万円と151百万円(10.3%)の増益となりました。



(注)売上高：外部顧客に対する売上高